法隆寺蔵〔医薬調剤古抄〕釈読

アンドリュー・ゴーブル

凡例

一、本稿は法隆寺に所蔵される古文書〔医薬調剤古抄〕を釈読し、現代活字をもって翻印したものである。

一、本史料は巻子本で、全四〇〇行からなる中世の医薬文書である。釈読にあたっては東京大学史料編纂所教授・石上英一氏ならびに奈良国立文化財研究所歴史研究室室長・紋村宏氏の斡旋によって現物を実見したうえ、その写真印画の提供を受け、作業の拠りどころとした。

一、本史料は鎌倉末期頃の写と推定される『声明集』の紙背に書かれたもので、巻首を欠損し、原書名を佚している。本史料については、高田良信「『医薬調剤古抄』の発見に想う」(『伊珂留我――法隆寺昭和資財帳調査概報8』、昭和六十三年)に来歴等に関する考察があり、それによると〔医薬調剤古抄〕の仮称は昭和七、八年ごろ、佐伯良謙管主によって与えられたものという。また同報告書ではその書写期は書風よりして南北朝最末期から室町前期であるとされる。

一、本史料は虫損が甚だしく、難読文字が少くない。翻字にあたっては、行頭に洋数字で現存行数番号を冠し、毎行の字詰は原本どおりとした。原本は俗字・略字が多用されるが、適宜、正字もしくは常用漢字に改めた。顕著な例として、「愈」という漢字に対し、経穴(ツボ)(兪穴・腧穴)を意味する場合は「兪」に改め、愈(イ)(癒)えるを意味する場合は「愈」に改めた。常識の範囲で理解しうる転用字(借字)については、原本の趣きを保つため、強引な改変は控えた。字数不明の不可読文字は□、もしくは□、一字の不可読文字は□で表した。また、難読ではあるが某字である可能性が考えられる場合は〔某〕とし、字画に欠損はあっても某字に相違ないと考えられる場合は□で囲まず、そのまま某と表記した。釈字に万全は期しがたいが、不審とされるむきは直接原史料に拠られ、指正いただければ幸いである。

一、本史料についてはいずれ英訳および英文論考を発表する予定であるが、本稿はその前提として平成七年七～八月、北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部において小曽戸洋・真柳誠・小曽戸丈夫・町泉寿郎の各氏とともに輪読会を行った研究成果に基づいたものである。

翻字

1 □〔霍〕乱不可絶□
2 □其兪ハ第十七推ノ両方一寸半也
3 □ノ下合谷ト云又齊(ヘソ)ノ四方
4 □

5 □□子□十ケ　大黄　黄薩□　軽粉各一両
6 朱砂一分　桃枝
7 右此等ヲ粉ニノ桃□□煎スヘシ粉ニ
8 □□ヲ入テシハラク煎テサマシテ服ヨ腹□□□
9 □クタシテ梅干ヲ加ヘテ服ヨ大腸ノ
10 □□□悩乱ノ血屎下ル速ニ
11 □血ヲヒカ□
12 蔵ノ熱ヲヒカセヨ
13 補小腸薬　昇麻湯
14 昇麻　干姜　藤根等分　多煎可服
15 小腹痛ハヘソノ下痛ノ霍乱ノ如シシキリニ青
16 痢下テ悶絶ス此病ハ常ニ□腹ニアツキ物ヲ食ニ
17 ヨル小腸ノ兪ヲ灸其兪ハ十□推ノ両方
18 一寸半也并ニ其源ヲ灸即足大指ノ本ノ骨
19 ノ内ノ下ヲ灸椀骨穴ト号ス本ノ蔵ノ風邪ヲ去ヨ
20 瀉小腸薬　鎮心湯□化毒□
21 地黄　麦門冬　苦参各五分　黒龍膽二両
22 藤根二両　右此等ヲ煎可服
23 小腸ノ熱ヨリ発病痢結テ大便動セサル也
24 血道結シ諸ノ血道ニ病アリ速ニ其兪ヲ
25 瀉シ其源ヲ指シテ多血ヲ出又本蔵ノ熱ヲ
26 去ヨ
27 補膽薬　温中散
28 人参　苦参　白述　藤根各々等分煎可服
29 膽府病ハ風冷ニヨラハ鼻血タリ血不止清盲
30 ニテ目不見膽ハ爪ノ骨ニ主ル風邪是ヲ侵レハ
31 爪ノ骨ノ病ヲナス其兪ハ第十推ノ両方一寸半ニ
32 アリ其源ハ丘虚穴ト云是ハ外ノツフヽシノ下
33 五分サケテマヘニヨリテ去之其兪ヲヨク可灸
34 又其本蔵ノ風邪ヲ去ヨ
35 瀉膽薬　三黄湯
36 大黄　黄連　黄檗　等分合煎可服 苦参加テ効アリ
37 膽府ノ熱サカリナル病ハ眼ノ人ミツキ出テ人ミヲ
38 損ス缺盆腫ウミツユ若内ヘツユレハ死ス
39 外ヘツユレハ生　喉腫テ物不食舌巻テ物
40 不食皆是膽ノ熱也イソキ其兪ヲ指テ
41 血ヲアヤシ其源ヲ指テ血ヲ下ヘシ又其本蔵ノ熱
42 ヲ可去
43 補胃薬　温中散
44 此薬ハ補脾薬ヲ用ヨ　胃風冷アレハ
45 腹大ニノ腹フクレテ白アハヲツク物不食
46 髓ミタレテ腹ナル常ニ屎ヒル速ニ府兪ヲ
47 灸其兪ハ十二推ノ両方一寸半ニアリ其源ハ
48 衝陽穴アリ其穴ハ足ノヒラノ上ヘ五寸サシ灸
49 又本蔵ノ熱ヲ去ヨ
50 瀉胃薬　瀉黄散　又辰砂湯
51 天麻　白蠶　天南　水銀　朱砂

52 右此等等分ニ末薄苛ヲ煎メ其湯ヲトロ〳〵ト
53 カキ分テ後ニ水銀ヲ少分具□ツ□ヘ此等ヲハ
54 万ノ寒病ニ風熱トモニ服セヨ胃府ノ熱痢ハ
55 身ホトヲリテ水呑ミ痢結テ不下小便ノ
56 色赤テヲキ臥悩乱ス白眼アカシ速ニ
57 其兪ヲサシ其源ヲ指セ本ノ蔵ヲ去ヨ
58 補膀胱薬　消積散
59 両方一寸半ニアリ其源ハサキニ同シ是ヲ
60 サセ三焦ト心胞洛トノ補寫方其薬ハ小腸ニ
61 同シ其病ハ三焦ニ熱アレハ気熱(アツク)身ホトヲリ
62 テ尿ノ色黄ナリ又血之病アレハ尿ニ白物多アリ
63 三焦ヲ寫スル薬ニハ
64 人参　黄連　大黄　枳穀各一両
65 右細末メ紅煎可服
66 三焦ヲ補スル事ハ小腸ニ同シ升麻湯ヲ服セヨ
67 其兪ハ十五ノ推両方一寸半ニアリ其源ハ外ノ
68 節カケ(トメ)ノ針也人ニハ手頸(テクビ)小指ノ本ノ節カケノ
69 外ノ方ナリ陽池穴ト云也
70 右五蔵六府皆咽喉又胃脈ニ相連レリト
71 イヘトモ肺心ノ二蔵隔上ヘニ榮津(エイシン)ヲ行ス
72 肝ノ一蔵ハ第七ノ[焦](ヒウキヤク)隔ノ根ニ依付テ上下シ
73 魂気ヲ行ス脾腎ノ二蔵ハ共隔下ニ有テ
74 [其]別アッテ津液(ツヒエキ)トヲ寫ス両腎ノ中ノ一
75 腎命門ノ脈(スヂ)ハノホリテ隔ヲ連テ心肺ノ
76 根ニ属セリ隔マクハ前(マエ)ニハ心厭ニ付シ後ロハ第
77 七ノ推ニツケリ然而隔根背ニ付テ腰ニイタリ
78 テ鬲ノ[タ][ナ]ノ諸蔵皆鬲ノ根ニ付アリ鬲ノ
79 腧ハ第七推ノ両方一寸半ニアリ命門ノ腧ハ
80 第十四推ノ下ニ有リ
81 隨四季薬　春ハ丸薬　夏ハ湯薬
82 秋ハ散薬　冬ハ圓薬
83 一痃癖ハ肝脾ノ蔵ヨリ起レリ痃ハ肝ニ主ル
84 癖ハ脾ニ主ル痃癖ノ病[相]ハ[色]常[青](アヲ)シ
85 ヤセ病ノ如シ目眼目[相][悪](アシク)□心□[ル]カ如シ
86 三焦ノ府ト云ハ上焦ハ胃府上口ニアリ中焦ハ
87 胃府中ニアリ下焦ハ胃府ノ下ニアリ
88 一耳ノ薬　唐ノ胡麻ヲ皮ヲ去テ菖蒲一寸カ中ニ
89 節[九]アルヲ取テ用之合薬シテスヘシ大事
90 ナラハ一日ニ三度ナツメノサネ[ホ][ト]ニ[丸][メ]綿ヲ□[く]
91 □[テ]耳ニ可指　秘薬也
92 一地黄ハ鐵器ヲイ[カ]ニ[モ]□
93 山薬ハ竹刀ニテ皮ヲヨク〳〵コソケテ布ニテ
94 ナメリヲ□テ皂角(サイカク)ノ刺(イバラ)ノ上ニテサラシ乾ヘシ
95 山茱萸ハ温水ニ[浸]□[良][久]メ取肉サネヲ去
96 一□□濡肉ニ両許　八味圓　長日服スルニハ
97 去附子加五味子ヲ一切ノ補薬也[補]腎薬ナリ
98 一□度薬　萱草(クハンサウ)ノ花ヲ取集テ能〳〵

99 干テ並テ煎可服之　萱草ヲハ亡憂草トウレヘヲワスルトクンスルナリ

100 一一握（ニキリ）トハ三両也　橘皮五具トハ五両也　大把トハ二両也

101 一夬トハ三寸也　猪檳榔トハ大ナル檳榔子也

102 一墨トハ一両也　密一行トハ七合也

103 猪ノ油一斤トハ一升二合也　□及□アル物一筥トハ

104 二升也　黄蘗一斤トハ二両也　人参一枚トハ二分也

105 湯ニ一坏トハ三合ノ酒坏（サカツキ）ヲ以為准

106 又云薬升トハ上徑（カミノワクリ）一寸下ノ徑六分フカサ八分也

107 今案云薬升ハ大小アリ此ハ小升也又説云方圓

108 二寸也大升トハ九合升也累代薬義ニ用来（モチサ）ル典薬（テンヤク）

109 寮御銚子ハ九合ノ升ノ三升納也湯薬ノ方ニ

110 用ルハ大升也散薬ニ用ルハ小升也

111 一□中散　一切利病薬

112 □粟殼三斤　厚朴三斤

113 右細末毎服二三セン米飲調之忌生冷油膩魚鮓

114 又鵜（ウ）ノ圓焼細末旦空心□□夕空心ニ毎服

115 半センヲナマヌル湯ニ入テ服之立平愈

116 一常思草トハナモミ也

117 一痢病ノ灸穴　病者ヲ直（スク）ニ立テミレハ腰ノ両方ニ

118 クホキ所アリ其陥（クボキ）所ノ穴ノ徹ヲ脊骨ノクホミヲ可灸

119 無左右用穴也必有其効云卅一壮又開元ヲ可灸

120 齊（ハ）ノ下三寸ニアリ又狼牙ノ灰四五センヲ狼牙ノ

121 煎物ニテ可服阿膠ヲ可加

122 一訶梨勒丸（十三種）　虚損腹病ヲ治

123 訶梨勒皮・檳榔子各二両　人参三分　橘皮一両二分

124 伏苓　芒消各一両　狗脊三分　皮一両

125 大黄　桃仁各二両　牽牛子十三両　桂心二両

126 干薑三両或二両二分　以上

127 右訶子皮ハ帋ニ裹テ上ヲヌラカシテアツキ

128 灰ニウツミテ吉程□ホ、トスルホトニ取出テ

129 石ナトニアテ、カナツチニテ理（ツツミ）ナカラ打ヒサキテ

130 實ヲ可捨皮肉ヲ用ヨ吉程ニ切テハラ〳〵トナル程ニ

131 アフリテ後ニハカリニカケテ分両ヲハシルス多

132 減スル物也アフランニハコカスヘカラス

133 檳榔子ハ上ノ皮ヲケツリテ一夜酒ニ浸テウス〳〵ト

134 ケツリテ日ニホスヘシ火気ヲヨセス

135 芒消塩ヲ水ニカキ立テクラクラトニテアワノ

136 上ニ付タルヲ用ルマコトノ塩ヲハモチキヌナリ

137 狗脊ハ二八月ニ根ヲ取テ曝シホスイカニモ

138 此土ノハ効ナシ唐ノ者狗脊ハヨ〻トコロセカラヌ

139 薬也此土ノヲ用ニハ犬ノ牙ノ様（キハ）ナル物ノ堅カ吉ト也

140 豉ハ黒大豆ヲ三度蒸シサラシテイリテ皮ヲ

141 ムキテ用也様々ノ説アレトモ此様ヲ古ヨリ

142 用来キタル也

143 大黄　ウスク切テアフルヘシ

144 干姜　水ニ六日浸　竹ノ刀ニテ皮ヲヨク〳〵

145 コソケステ、後籠ニ入テ流水ニ三日
146 ヒタシテマロナカラホス也蒸事ハセズア
147 ワスルヲリニ切テアフリテ粉ニスルナリヘキ
148 タルハトクヒテヨケレトモ圓ニテホシタルカ
149 吉也〻桃人ハ皮ヲステ、ホソキ所ヲ切リスツ
150 又一皮ノ中ニ別ニ又アルヤウナル両皮ヲハ具セヌ
151 ナリ香宮ニナルマテハヤカラス□アレ又椰ニイルナリ
152 牽牛子水ニウクハ取スツシツミタルヲ取テ
153 アケテ後ニスコシイルヘシ
154 以上粉ニシハテ、帋ヲヒロラカニ續テ牽
155 牛子ノ粉ヲマセテ能〳〵カキ合テ後又フルウ
156 ヘシ牽牛子ヲ能〳〵合センタメ也牽牛子ハ
157 ホトフレハ験ノウスクナレハ分両ヲモ今少可増
158 後〻ニ丸セン時モ少ツ、具シテ可丸六十日ナトマテハ
159 牽牛子具セストモアルヘシ又痢ナント結シテ
160 アラハ是モスコシ具メ可丸訶子皮一両二分ニ牽
161 牛子二合ヲ具メ二百三四十丸合タル吉程ナリ
162 又ウスライタル帋一枚ヲ分両ノカ、ラン程ヲ
163 カキツケテ定テ置テイツトテモ置テ可懸
164 又半齊ニ一分半ナトマシテ合タルマテハ廿五両
165 一分ナトニ合セ出スナリ　又夏ニカ、リテ多ク
166 合セタラハ上ヲアマタエ裹テ煙セン上ニ可並
167 此ハ薬種ノ分両一齊之定也半齊ハ此カ半分也
168 服此薬間禁物

169 柘榴　未熟菓子　生菜　蘘荷　葛根
170 昆布　和布　赤小豆　黒大豆　酢　油物
171 決明（エビネ）　虎醬　諸鱠　生魚　葱　韮等
172 一茯苓丸　治痰飲
173 茯苓一両　枳殼半両　半夏二両　厚朴一分
174 右末生薑ヲシホリテ少煎カタメテ可丸如
175 梧桐子大毎服三十丸以生薑湯呑下服効甚神也
176 一アエキ　シワフキノ灸穴
177 足ノ頭所ノ迴ノ寸法ハ只同也此寸法ヲ取テ頸ニ
178 カケテ左右ノ端ヲトリ合テサキノアタル所ヲ
179 灸ス又此寸法ヲ前ヘ引アテ、胸ニ寸法ノ至ル
180 所ヲ灸ト云々両方者是輒不可相伝秘事也
181 一手ソニハ蛇含石ヲ搗テ付秘事也
182 一小舌ニハ左右ノ手ノ人指ノユヒヲ指合テ中ヲ
183 三壮灸両方爪中之健勝也
184 一虫食歯灸所　足ノ醫師ノ指ヲ外カトヲ三壮
185 灸之痛方也或人依夢想之告則平愈云々
186 一水銀ヲ食タルニハ金ヲ口ニクワウヘシ金ナクハ金色ノ
187 佛ノ御手ナトヲクワウヘシ
188 一胸ノ薬　矢ニハキタル鷹ノ羽ヲ灰ニ焼テ水ニ
189 立可服秘薬也　又云足ノ小指ノ中節ノ外
190 カトヲ暫時ノ病ニハ三火久病ニハ十一壮随宜可灸之
191 但男ハ左女ハ右也効験其数多也可秘〻〻
192 一普通ノ消渇ニハ非スメ小便不通メ腹脹テ俄ニ

193 死スル病アリ大事病也療治ニハシミスト云虫ノ
194 文ノ中ニアルヲヘソノ穴ニ二三ヲシ入テ件ノ虫ノ
195 イツル程ノ穴ヲ帋ニアケテ其帋ヲ齊ニ覆テ
196 可置虫其穴ヨリ出テ散ス然後ニ尿忽ニ下也
197 現證異テ他可秘之　又齊穴ニ塩コミテ大ナル
198 艾ニテ甘壮ハカリ可灸　又云齊下三寸灸秘事也
199 不可外口、、〳〵
200 一木香順気散　虚気腹痛者
201 良香　乾姜炮　茴香ヨク〳〵イリテ用
202 陳皮　縮砂不見火　桂　丁字　厚朴
203 桔梗　蒼述　甘草炙
204 分両ハ如此調テカクヘシ等分也
205 勝紅圓
206 芎藭一分　京三稜　述各一両　良香　香附子各一両二分
207 縮砂二両　熟乾地黄一両　川當帰一両一分
208 辰砂　白蒺梨各二分　甘葛二両以上十一味
209 一心気湯　腎ノ薬　虚人　妙心注
210 華撥　胡椒各二分　人参一両
211 一秘薬　大柿ノ核墨灰ニナシテ人ノ髪ノ
212 垢ノアルヲ灰ニ焼テ此二種ヲ等分ニ合テ胡麻ノ
213 油ニトキテ疵ニ付レハ苦痛ナクシテ愈最上薬也
214 只粉ニメモヒネリカクヘシ黒焼ヨシ白灰ハ悪シ
215 一麝香丸　治腹病
216 麝香　丁子　干姜　大黄　芒消　甘草
217 右等分細末密丸　三十丸可服
218 一麻子散　万病薬
219 黒大豆　麻子
220 右春秋ハ等分夏ハ大豆二分麻子一分冬ハ麻子二分
221 大豆一両イリテ皺ニナシテ一合酒ニテ可服之
222 一橘皮湯　物吐　不食　風薬也
223 生薑五両　橘皮二両　白朮二両　茯苓二両
224 右四物水六升ニ入テ二升半ニ煎シテ可服之
225 一生肉散　金疵ノ薬也
226 紫檀　甘草
227 右薬等分或麝香少分入也今案イチコシ、出来後ハ
228 地黄膏妙也
229 一補心圓　至高宗朝永徽元年於竿麻
230 蘭若労疾発動乃感北方毘沙門天王ニ授与補心薬
231 方今現行於世ニ服者皆有霊驗
232 暑預　乾地黄各七分　杜仲　栢子仁各四分
233 防風五分百部根四分　貝母五分　紅参五分
234 天門冬八分丹参五分　茯苓七分　甘草四分
235 茯神四分　昌蒲四分　遠志二分去心　麦門冬六分去心
236 五味子四分
237 右件薬一十七味細末為散用密丸ノ如煇子大
238 毎服毎日食上ニ合テ一丸ヲ微〻ニ以津咽之此薬
239 能開心強記去驚怖補心神ヲ明耳目如気

240 満四肢坐臥不安手足無力心虚メ多忘(ヨクワスレ)一切
241 風疾及諸宿病并宜服之服二十日去心熱ヲ
242 服至卅日言音清雅至四十日顔皃如シ十五ノ童子ノ
243 甚有神験師可服之
244 一麻皮散　脚気骨痛ヲ治
245 麻皮(黒灰)一両　枳殼二分
246 右細末以無灰酒毎服二銭匙
247 一快気湯　息クルシク不食第一薬也
248 香附子一両　橘皮　甘草(各)二分　蒼述一両
249 獨活　茴香(各)二分
250 右細末塩湯調下
251 一九龍膏
252 黄連　キワタ　秦皮　菊　枸杞(クコ)　目木(各)九両
253 古文銭(三六枚)　藤(直長二本)　麝香一朱
254 右九味切水九升ニ入テ潰(ウツシ)煎後以生絹去滓九日
255 九夜煎堅ヘシ麝香ヲハ別ニ砕イテ去滓後可入之
256 初生(ウイコ)ノ男子ノ乳或井花水(セイクハ)
257 一霍乱　并ニ胸ノ薬
258 伏苓　葛粉　此等ヲ等分細末合セテ
259 霍乱ニハ井花水坏ノ二三坏ハカリヲ件ノ粉ヲ小坏ノ
260 一坏ハカリヲ入テ搔合テシル〳〵ト成程ニシテ可服
261 胸ノ病ニハナマヌル湯ヲ坏ノ二坏許ニ搔立テ呑ハ
262 或ハツキ返テ減スル人モアリ不吐減スル人モアリ
263 霍乱ニハイソキ胃管ヲ可灸　良香ヲ紅煎
264 可服愈テ後一日ハ米類不可食今日ノ午ノ時ニ平愈
265 タラハ明日ノ午ノ剋スクル程ニ可食　茯苓ニ米ノ粉ヲ
266 入テカユニシテ食スヘシ又粟ノ粥此等ヲ食後
267 飯ヲハ可食
268 宜食　ホシナツメ　暑預　ヌカコ　トコロ　焼クリ
269 梅干　粟　大麦　クスノ粉　ハス　□
270 牛旁　アヲノリ　禁物　生菓子
271 一手足遍身等ニイホノアルヲ治ス
272 生茄子ヲ二ニ破テイホニ切目ヲホリテサテ其
273 茄子ヲ押合テカラケテセヽナキニウツミテ二カ日程ヲ
274 過テ取出テスヽキテ切目ヲイホニスリヌルヘシ
275 同キ茄子ヲ又ウツミテ一両日ヲ経テスリヌルヘシ日此
276 スル事四五度ハカリスヘシ一定ソノ験アリ不可有
277 疑云々　是ハ唐醫師秘説也雖与千金輙不可有相傳也
278 又馬ノ糞ノクサヒラヲ可付失也
279 一妊婦痢治方
280 罌粟殼一両　縮砂二両　人参一両
281 以上三種忠景朝臣注文京醫師也
282 一果(末)三センウスキヲカユノウハスミニカキ立テ可服之
283 中一時ヲヘタテヽ重テ可服之
284 一耆婆方　三十年咳嗽方
285 細辛(煨)紫菀(煨)麻黄　甘草　干薑(炮)
286 右各四両為散白飲服一方七日三

287 一露宿丸　治大寒冷積聚
288 礬石　干薑　桂心　桔梗　附子　皁莢（サイカイ也）各三両
289 右篩密丸如梧桐子十丸日三稍増至十五丸
290 一僧深方云　治心下支満痛破積聚欬逆不受食寒熱
291
292 蜀椒　干薑　烏頭　桂心各五分
293 右四物治合下篩密丸如小豆先餔食以米汁服
294 一丸日三夜一不知稍増一丸以知為度
295 一徳貞常方　積聚方　灸
296 第十三推節下間相去三寸　又方灸上管
297 在鳩尾下二寸　又方灸胃管穴在上管
298 下一寸　又灸水分穴在斉下一寸
299 一附子丸　治三十年心痛
300 人参　桂心　干薑　蜀附子　巴豆各二両
301 右五物細末密丸如大豆先食服三丸日一神良
302 一悪瘡十年不差似癩方
303 蛇脱皮一枚焼之黒灰末猪脂和付之
304 一千金方　治小児頭瘡経年不差方
305 松脂六分大黄四分苦参五分黄連六分胡椒四分
306 右五物末猪膏和研水銀散付之
307 一蓮根□薬事
308 髪ヲハサミノケテ腫分ニ膝ヲヘタト付テ其上ニ
309 石灰ヲ粉□□テヒネリ□ケ□其上ニソクヒヲ帋ニ付テ
310 可押付帋ノマイタ、キヲハチトアクヘシ様モナク愈ユ
311 カヒカラ□洗テ此療治ヲスヘシ
312 一脚気ノ薬
313 戸邊（ト）羅（ヘラ）ノ木ノ黒焼ヲウ□□クヒニテ具ノ帋ニ
314 付テ脚気等ノロ□ク向□タラン上ニ可付
315 即平愈云ヽ
316 一魚目ノ薬　松脂ヲ吉酢ヲカヘラカシテトキテ
317 箸ノサキニ付テア□ナカラ□魚目ニヲトシカクヘシ
318 膿テ松脂ヲハ蓋ニノ愈ユル也又先上ヲスコシ削（ケヅリ）テ
319 其上ニ菎蒻（コンニヤク）ノ□ヲ塩少シ入テモミテネヤシテ
320 帋ニ付テ廻ニソクヒヲ付テ押付ヘシ即抜也
321 一闇寸白治方　茱萸湯　又治脚気
322 吳茱萸　干薑　檳榔子　良香
323 陳皮　紫蘇各一両
324 右搗篩毎服四セン水一サン至七分去滓不計時候一服
325 一鼻血不止第一薬
326 梔子（クチナシ）ノ皮ヲ取捨テミヲ粉ニノ鼻ノ穴ヘ吹入レハ
327 即止秘薬也
328 フクリ俄ニ赤腫治方
329 栗ノミヲ一升水三升入テ七分□煎洗之
330 又　芍薬　防風等分ニ煎可服
331 凡陰嚢腫ハ由腎蔵有風熱　陰殫（ヘノ）入腹
332 殺人　牛ノクソヲ焼以吉酒和付之
333 灸閇間ノ間ナル四辻ヲ灸薬ヲ付ラレテ腹ヘコミ
334 上レハ第四推ヲ灸ヘシ此灸熱ノ間ニ最上灸也

335 又茴香ヲ火ニ乾末ノ温酒ニ服スレハ一定チキサクナル也
336 又灸藁スヘニテ病人ノ口ノヨコノヒロサヲ度テ
337 病人ヲ仰(アフ)ノケニ臥テ身ヲタヽシクシテ糸切(イトキレ)ノ
338 左右ノ中心カ(ニ)口ノ寸法ノワラスヘヲ上ヘ斉ノ方ヘ向ケテ
339 [ア]テ、至ル所ヲ灸ス合テニ所也病人ノ年数ヲ
340 可灸其後力ヲ不出声ヲアラク不出腹立大ニ
341 咲事ナカレ身ヲ可慎
342 喘息灸
343 百會十五左右耳ノ下百咽笛ノ前百其左右ノ
344 筋百ツ、又頸ノ骨ノサ[ク]ラル〻骨ヨリ四ツト云骨[ゟ]
345 第五ト云骨ノ上ノクホミヲ三百壮灸第五推ニハ非ス
346 第三ニヤ不[望]熊野ノ権[現]ノ御託宣也此手形ヲ
347 可灸腕之年ノ数 [illegible] 手ノ一□[欹]
348 又ハ 膻中 花蓋 大推 肺兪 肝兪 [腎]兪
349 一小児ノ[黄]痢
350 車前子ヲイリテ服之蜂房灰ヤキテ
351 服之
352 一耳ノ底ウミツユヲ[立][斬]る治方
353 檜脂ニテ[軽]粉[ヲ]解テ□ツ[ニ]ハカリ入レハ痛止
354 灸百會十一火毎痛灸之耳上一寸ハカリ廿一[火]
355 一呉蚣耳入 張弓ヲロニクハヘテ枳(タイク)其弦(ツルヲ)令有声出之
356 一[ウ][チ]若ハ[尖]□ノ□ニ口□□□牛膝ヲスリテ
357 仙松子等分ニタラトスリテ入合テ付レハ散也[膝]ノ
358 腫タルニモ吉也
359 観音人参胡桃湯百一方 痰喘ヲ治ス
360 人参一寸ハカリ胡桃肉二三ケ中ノ薄様ノ様ナル皮ヲモ用ユ
361 右一服ニ剉合テ煎ノ可服 昔或人一人ノ小児
362 アリ[テ][シ]ワフ[キ][急][ニ]□[為]□万ノ薬ヲ服スルニ無験
363 父母[終]夜歎テ観音ノ名号ヲ唱テ祈申母ノ
364 夢ノ告ニ此薬ヲミル即[夜]中ニ此薬ヲ合テ令服
365 忽ニ平愈□□又合テ令服[夜]ハ[イ][ソ]キテ
366 ムカ□□胡桃ノ中ノウスキ皮ヲムカスアシタハ
367 ネンコロニムキテ煎ノ与フ又咳嗽如本発ス
368 コヽニ始テクルミノ中ノウスキ皮ノシハフキノ薬ナリト
369 知也[心][得]テ□[夜]ノ□ス□□[平][愈][ス]□□
370 又百□咳喘ヲ治スルニ極テ効験アリ
371 胡桃肉□[ケ]生薑五片
372 右[臥]□[時]一口[ニ]カ[ミ][ク][タ]キ[テ]飲湯ヲ三口ニテノミ
373 入ヘシ重テ一口カ[ミ][ク]タキテ如先湯ヲノムヘシ
374 如此ノ身ヲ[動][カ][サ][ス]ノ[枕]ニツキテネイルヘシ二三
375 夜ツヽケテ服ニ極テ効アリヨノツネノ風シワフキ
376 ハ両三夜ニ平愈[云々]
377 一如虎病発腹病灸所
378 斉ノトヲリノ骨ニ[差][懸]ヲシテ其ヨリ上ヘ五分上テ
379 骨ヲハサミテ両方灸ヨ
380 一歯ヲ取不生治方
381 薄蛤(ウスカウヒ)向東ニ歯ノ本ヲナツル即生也又アメ牛ノ
382 糞ノ中ナル大豆ヲ取テ粉ニノ常ニ歯ノ本ニ可付

383 一暑預酒方　山薬ヲヲロシテ入水入具塩山薬ヲ
384 能〳〵カキ立テ一カ[ユ][フ]カシカエラカシテ其水ニ入タル
385 後又酒ヲ入具スアタ、メテ可服之
386 内消第一ノ薬也腎虚[無]雙ノ良薬也有成経中
387 一薫物　沈一両丁子二朱薫陸一朱半白檀一朱
388 麝香一朱　貝香一朱　為名香
389 又方　沈四両丁子二両貝香一両白檀一分薫陸一分以上
390 一底腹薬　赤ムハラ(イヒツハラ)ノ薬ヲ細末湯ニ入テ服之立愈
391 一胸ノ薬　マヲノ根ヲワサヒヲロシニテヲロシテ
392 ス湯ニテ服スヘシ
393 一龍骨丸　長血ヲ治
394 龍骨アフレ　阿膠　赤石膏(シャクセキカウ)　牡蠣(ホレイ)
395 干地黄　當帰　甘草炙各二両　蒲黄三両
396 右八味細末丸メ可服日三度
397 芎藭丸　内[薬]
398 芎藭　[□][南]　當帰　蒲黄
399 白述各二両　薑三両
400 右細末丸大豆大[千][丸][日][三][　][　][服][　]

（北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部／米国オレゴン大学日本史）

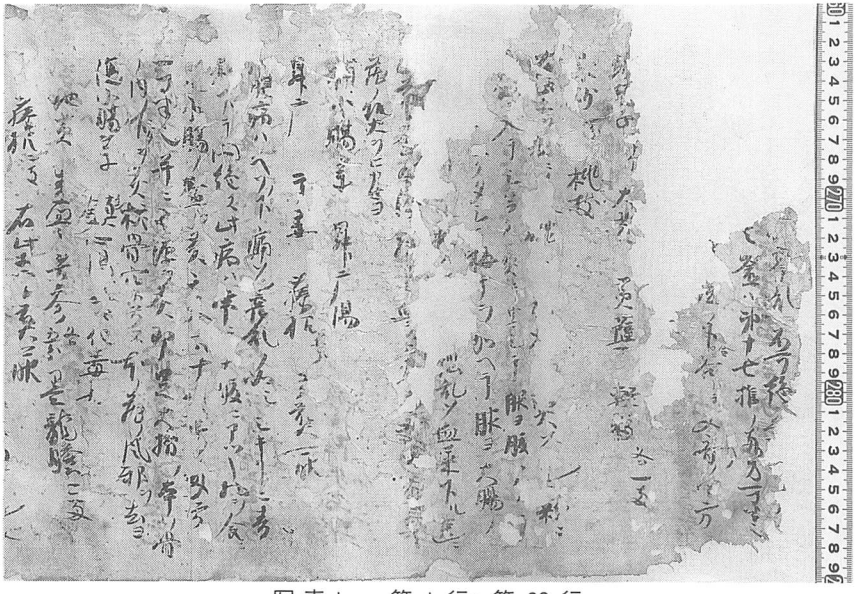

写真1　第1行～第22行

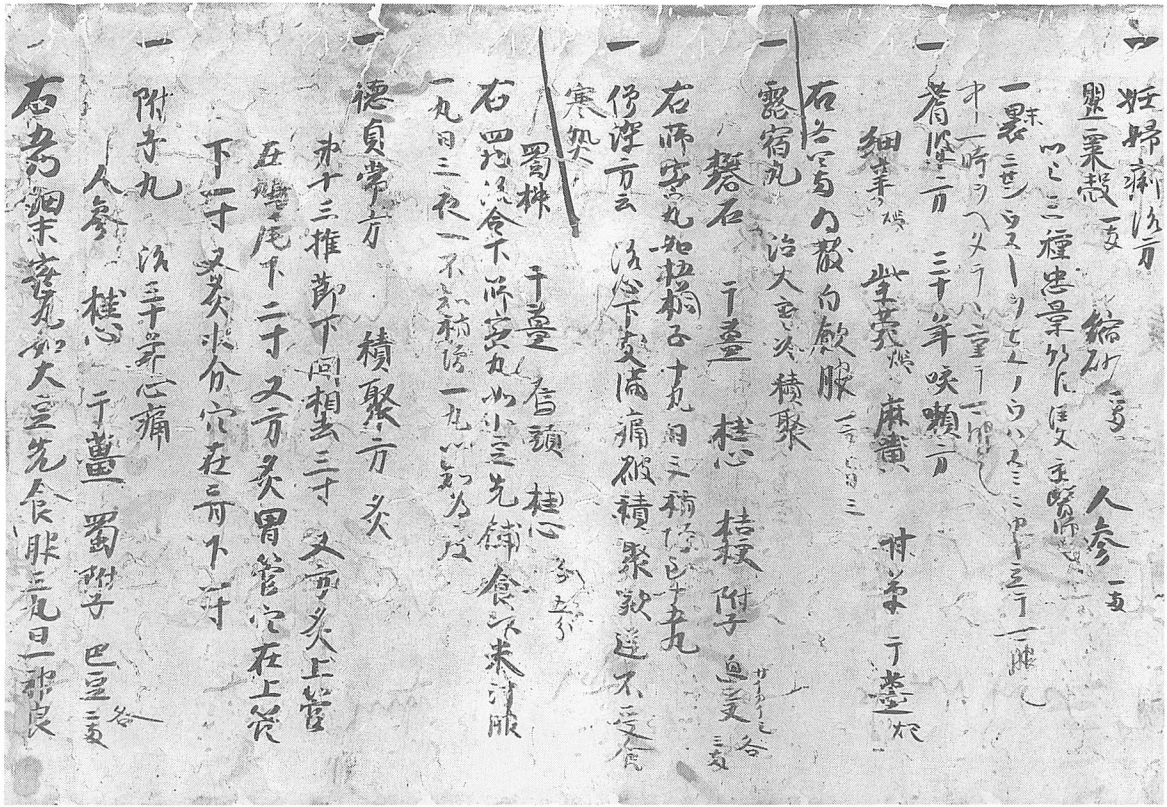

写真2　第279行～第301行

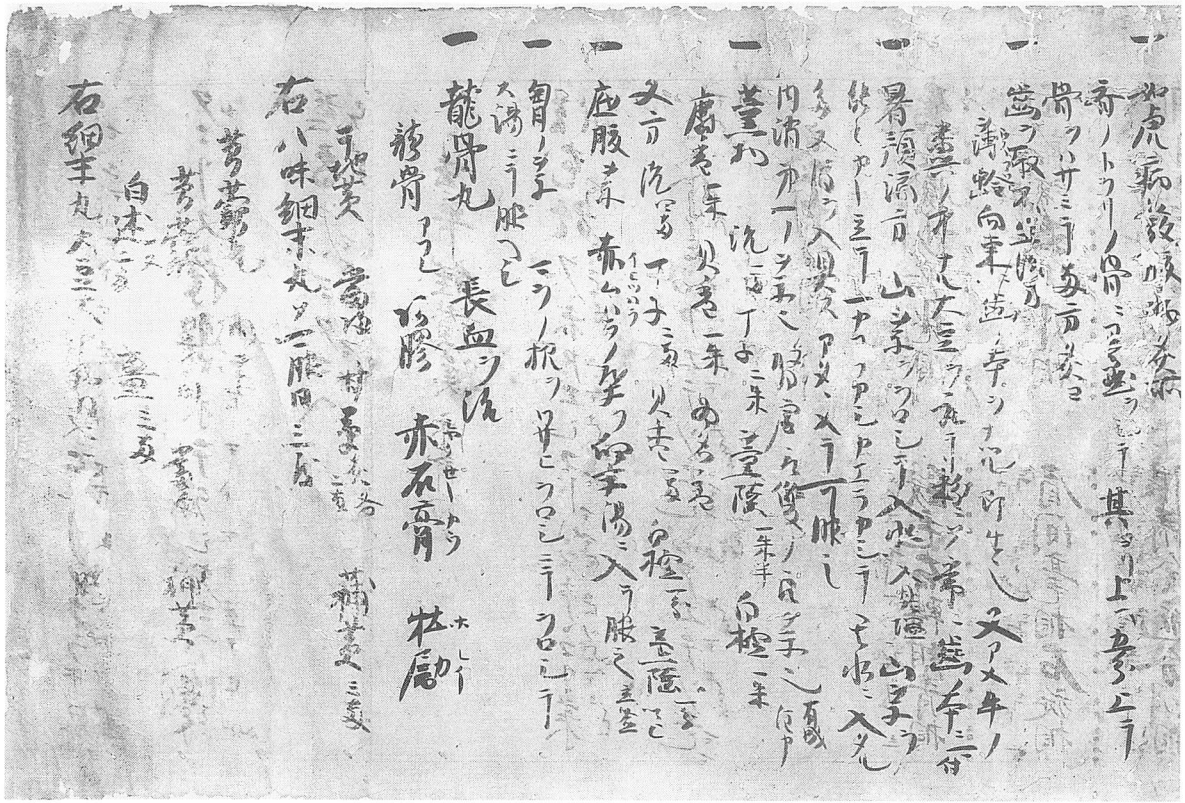

写真3　第 377 行 ～ 第 400 行（末尾）